

古高祭

7月17～19日に実施された古高祭では、我々は「来たれ！古高黄金時代」を掲げ、最高の古高祭を作り上げたい一心で運営に携わりました。開催までに大変なことも多々ありましたが、昨年度に比べて多くの有志団体のエントリーもあり、本番では各個人・団体が最大限に輝き、盛り上がることの出来た3日間だったのではないのでしょうか。本番に向けて友人と必死で準備した期間も、思い出の一つとして皆さんの心に刻まれているかと思います。そして、運営にあたって、昨年11月から共に活動してきた実行委員幹部の皆様に深く感謝申し上げます。辛い事もたくさんあったけど、私は皆で同じ目標を掲げ活動した事が自身の成長に繋がりました。大変でしたが、何よりも楽しかった事が忘れられません。やり切れなかった企画案・反省点は次年度の委員長に引き継ぎます。最後に、実施にあたって御協力頂いた地域ならびに教職員の皆様に御礼申し上げます。
(3年3組 古高祭実行委員長 早坂誠 古川中学校出身)



本年度の体育祭では、実行委員長として運営に携わる中で、多くの学びと貴重な経験を得ることができました。準備段階から本番当日まで、多くの困難がありましたが、仲間と協力し、一つひとつ乗り越えることで、体育祭を無事成功に導くことができたと感じています。この経験を通して、責任感や主体性の大切さを心より実感しました。また、全校生徒が各クラスで一丸となって競技や応援に取り組む姿を見て、古高伝統の体育祭は改めて素晴らしい行事であると認識しました。ご協力いただいた委員の皆さん、そして先生方に心より感謝申し上げます。3年生は残り少ない学校生活、そして1・2年生の皆さんは今後の行事を通じて生徒同士の絆を深め合い、活気ある古川高校を創っていきましょう。(3年1組 体育祭実行委員長 千葉光晟 古川南中学校出身)

体育祭

～各部活動の活躍～

ソフトボール部

仲間とともに駆け抜けた夏

私たちは、岡山県で行われたインターハイでベスト16を目指し、全力で試合に挑みました。1試合勝てば目標達成という場面で、相手は地元・岡山県代表。完全アウェーの中での試合となりました。初回にはホームランが飛び出すなど良い滑り出しを見せましたが、厳しい暑さや独特な相手のムードに押され、惜しくも敗れてしまいました。それでもチーム全員が一丸となり、最後まで勝利を信じて全力で戦い抜きました。この経験を1・2年生はぜひ次につなげ、再びインターハイの舞台でベスト16という目標を達成してほしいと願っています。私たちがここまで来られたのは、顧問の齋藤先生・菊池先生をはじめ、先生方やご家族、OBなど多くの方々の支えがあったからです。温かいご声援、本当にありがとうございました。

(3年5組 ソフトボール部部長 佐々木秀太 中新田中学校出身)



文芸部

季語の解釈を広げる

7月26～28日にかけて「かがわ絵文祭」文芸部門「俳句」分科会に参加しました。分科会では、講師の佐藤文香先生が事前課題の俳句を使って、季語の活かし方について教えてくれました。その季語からは直接想像できないような物事との取り合わせをあえて試し、季語の解釈を広げることが俳句の楽しみ方の一つだと教わり、とても興味深かったです。その後、取り合わせを意識してその場で出された兼題で俳句を作り、それぞれが好きなものを選びました。私には思いつかない発想の俳句がいくつもあり、刺激になりました。この機会があったから行くことができた場所、出会いがありました。そして、そのきっかけを作ってくれた文学をやっていて、好きでいてよかったと実感しました。これからも文学に親しむ気持ちを忘れずに生活していきたいです。(3年2組 文芸部 菅原亜咲奈 栗駒中学校出身)

囲碁将棋部

囲碁全国大会に出場して

8月4日、灼熱の陽が降り注ぐ東京。3年間憧れ続けた夢の舞台、日本棋院での対局に臨んだ。会場中の対局時計の音が響くたびに胸の鼓動が高まる、あの独特の緊張感もこの日が高校最後。3年間の歩み、その全てを盤上にぶつけた。結果は全国の高段者の相手に苦戦し、予選敗退。しかし、石川県の星稜高校との最終戦では、有段者相手に3人全員が数目差まで迫るなど、実力を十分に出し切ることができた。高校から囲碁を始めた初心者ばかりの仲間たちと共に切磋琢磨し、最後には宿敵だった仙台一高を破って古高史上初の全国大会を掴み取った囲碁将棋部での日々は、高校生活を彩るかけがえのない1ページとなった。更なる活躍を後輩たちに期待したい。(3年4組 囲碁将棋部部長 篠原佑輔 古川東中学校出身)



祝！IH・全国大会出場！

合唱部

全日本合唱コンクール宮城県大会 金賞!



私たちは8月30日に行われた第77回全日本合唱コンクール宮城県大会に出場し、2年ぶりに金賞を受賞することができました。3年生にとって最後の舞台上、仲間とともに最高の結果を残せたことを心から誇りに思います。今年度の合唱部は、古高祭の模擬店や夏の合宿を通して絆を深め、一人一人が互いを信じ、支え合いながら全力で活動に取り組んできました。日々の練習は決して楽なことばかりではありませんでしたが、その苦しさも楽しさもすべてが美しい歌声となり、舞台上で響いたのだと思います。ここまで積み上げてきた私たち3年生の想いを、これからは後輩たちに託します。最高の仲間と過ごした時間を胸に、合唱部はこれからも前に進んでいきます。最後に、これまで温かく支えてくれた家族には心から感謝しています。そして、日頃から活動を見守りご指導くださった先生方、ありがとうございました。
(3年1組 合唱部部长 清野佳蓮 古川東中学校出身)

吹奏楽部

吹奏楽コンクールを終えて

私たちは、先日行われた第68回宮城県吹奏楽コンクールに出場し、銅賞を受賞しました。結果としては悔しい思いもありますが、高校3年間懸けた思いを公正に審査していただけたことをありがたく考えています。今年の4月に会ってくれた1年生、先輩を慕いここまでついてきてくれた2年生、そして今年度から赴任し、どれだけの経験を重ねても学び続ける姿勢を見せてくれている顧問の先生へ、78回生吹奏楽部員を代表して感謝申し上げます。次は79回生の番です。日々、部活動をさせていただいていることに感謝をし、常に謙虚に学び続けることを忘れないでください。誰よりもあなたたちのことを信じて応援しています。(3年6組 吹奏楽部部长 渡邊暖大 古川東中学校出身)

剣道部

東北総合体育大会剣道競技で経験できたこと

私は8月23日、タカカツアリーナ大崎で開催された第52回東北総合スポーツ大会剣道競技に宮城県少年の部の次鋒として出場しました。大会前には同じチームとなる宮城県の強豪校の先輩方と一緒に強化練習や京都遠征に参加しました。その中でたくさんの刺激を受けるとともに、剣道に対する姿勢や心構えを学ぶことが出来ました。京都遠征では、全国の代表選手たちの高い技術力を目の当たりにし、自分との力の差を痛感しました。大会は地元開催で、浩文先生が公開演武・日本剣道形を披露したので失敗しないかがチガチに緊張したし、たくさんの応援を受けてやはりチガチに緊張しましたが、「絶対にリードされて後ろに回すことはしない」と心に決めて試合をしました。結果、1勝4分けて自分個人での負けはありませんでしたが、チームとしては2位に1本差で敗退し、惜しくも本国体出場を逃してしまいました。もっと先輩たちと練習や試合したかったので、とても悔しかったです。この経験を今後の自分の剣道につなげ、これからも精進していきたいと思います。レッツ宮城県制覇!! (2年2組 剣道部 堀越大愛 古川南中学校出身)



陸上競技部

東北新人大会を終えて

このたび、東北高等学校新人陸上競技選手権大会に出場し、400mで第6位となりました。これまで100mでの10秒台にこだわって走り続けてきましたが、過去の怪我でリハビリを続けるなか、顧問の遠藤先生に背中を押され、県新人戦直前に100mから400mに転向。無謀とも思えた挑戦でしたが初優勝を果たし、驚きと手応えを感じました。そして迎えた東北大会。全国を意識する選手たちの緊張感に包まれ、レース前から胸が高鳴りました。予選から全力、決勝では「どこまで通用するのか」を試すつもりで攻めの走りを徹底。結果は6位。悔しさは残りましたが、経験も実力も不足していることを痛感し、次へ進むための課題がはっきりしました。私が今、その課題に向き合う勇気が持てるのも、家族や仲間の支え、そして遠藤先生のご指導があってこそ。今回の結果に満足することなく、来年のインターハイ出場を確実にし、進化を続ける選手として努力を重ねていきますので、どうかこれからも応援よろしくお願い致します。
(2年3組 陸上競技部 二階堂奏介 若柳中学校出身)

【陸上競技部 東北新人大会入賞者】

女子走高跳(優勝):遊佐たまき(2年2組 鴨川中学校出身)、男子400m(第6位):二階堂奏介



7月28日、県内の中学校から総数468名の参加申込があり、本校オープンスクールが開催されました。全体会では、阿部美斗生徒会長(3年2組 不動堂中学校出身)をはじめ、昨年度卒業生(77回生)の鈴木梨夢さん(高崎経済大学1年 古川南中学校出身)・高橋祐人さん(宮城教育大学1年 松山中学校出身)が自らの体験をもとに高校生活を紹介しました。オープンスクールスタッフの在校生が、受付から懇談会まで運営し、古高生の日常や勉強法など趣向を凝らして説明しました。多くの方のご参加、またアンケート等にご協力いただき、誠にありがとうございました。

令和7年度古川高校オープンスクール